

美作の狛犬（6）

田渕千香子

はじめに

私は、美作地域の狛犬を悉皆調査している。奉納されている狛犬の中には、年代・石工銘以外にも、台座に寄進理由が記されたものが存在する。狛犬がどういった経緯で寄進されたのか知る上で大変重要な情報である。寄進理由の中には、「皇紀二千六百年記念」「興亜記念」など氏子中で戦勝祈願をしたものが多いが、「古希記念」「快気祝い」「日参記念」など、個人的な理由で奉納する場合もある。

さて、今回知人から自身が10年に渡り翻刻されている明治時代の日記に狛犬が奉納されるまでの経緯のわかる資料が見つかったという知らせが入った。それは、明治時代に活躍した津山市の実業家・安黒一枝の日記である（註1）。今回は、この日記の記述を元に

木山神社（里宮）拝殿前の狛犬



（写真1） 真庭市木山神社（里宮）拝殿前の狛犬

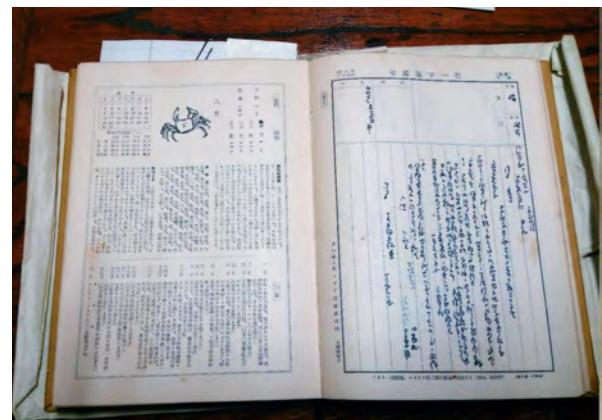


（写真2） 木山神社里宮狛犬台座銘文

狛犬奉納までの経緯を追っていきたい。

木山神社（里宮）の狛犬の台座には、阿・吽それぞれに寄進理由が記されている（写真1・2）。阿形には、「御里宮 御造営記念 津山市上横野 高岡善直 昭和三十四年八月吉日 奉建」、吽形には、「自明治四十

年一月至昭和廿二年一二月 五十年間 御奥宮 日参記念 津山市上横野 高岡虎市」といった銘文が書かれてある。高岡善直が、木山神社に里宮が出来たことを記念、また高岡虎市が50年間奥宮まで日参したことを記念して、狛犬を奉納したことが明記されている。



（写真3）『安黒一枝日記』昭和34年

安黒一枝の日記に見られる狛犬奉納までの記述

『安黒一枝の日記』は、明治32年～昭和38年、安黒一枝が亡くなる年まで、毎日書かれていて、日記帳48冊と大学ノート23冊、その他の綴り14冊にまとめられている（註2）。その中に、「昭和34年7月31日 高岡君来荘 木山神社奉獻コマ犬ノ名文ヲ据ヘツタ之々」とする記事があった（写真3）。「高岡君」とは誰なのか。日記を調べていくと、「高岡君来荘」という記述が毎日のように並んでいる。昭和15年5月24日の記述には、「高岡君来荘 善真君無事帰還ニテ木山に御礼詣ルト」があり、また昭和36年7月25日には、高岡虎市が亡くなった後に「高岡善真君来荘 父翁仕上昨日執行シ由ニテ送品」と書かれてある。「高岡君」とは、高岡虎一（市）という人物で、その息子が高岡善真という名前であることがわかった。木山神社（里宮）の狛犬の台座銘には、「御里宮御造営記念 津山市上横野 高岡善直 昭和三十四年八月吉日 奉建」・「自明治四十年一月至昭和廿二年一二月 五十年間 御奥宮 日参記念 津山市上横野高岡虎市」とあり、日記の記述を照合すると、高岡虎市の字が「市」・「一」

と異なるが記述内容から同一人物であると考えて良いと思われる（写真1・2）（資料1）。

高岡虎市、木山奥宮 50年間日参の記

高岡虎市は、大正8年から昭和35年に77歳で亡くなるまでの約40年間に渡り登場している。仕事関連のやりとりが主な内容だが、徐々に高岡の個人的な動向も記述されるようになり、高岡が木山神社に参詣したことがわかる記述は、解読されたものの中からだけでも152件にのぼる（写真3・資料1）。日記の記述からは、高岡の人物が窺えるものもある。例えば、昭和15年5月24日「高岡君来荘 善直君無事帰還ニキ木山に御礼詣ルト」とあり、高岡虎市の息子が太平洋戦争から無事帰って来たことへのお礼を言いに参詣している。昭和15年は、高岡が木山へ参詣した回数が14回と他年と比べ群を抜いている。また、前後の年も例年より回数が多く無事に帰ることを祈念していたと思われる。また、昭和28年7月13日「高岡君来荘 病夫人臼臼最後が近キ模様ノ一週間山口医師ノ診断ヤロコノ件カド呑ス ロロハ木山行キノ予定也ト」昭和28年7月25日「ロド品 葬儀費カド十三万円ヲ要シト 明朝木山ヘ行ケト」昭和28年7月26日「今夕木山上リ」では、高岡の妻が病気になり明日をも知れない状態の中、回復祈願に木山へ参詣する様子が窺える。さらに、昭和32年6月30日「高岡君来談 上横

野自宅火事カリカ幸ニ早ケ発見大事カリ由ヒノ礼漸ケ木山ヘ参詣帰津セト」、昭和32年12月26日「高岡君来荘 長女ノ知□□君□ノ大手術ヲ受ケ本日七日ニナツノ間木山詣リ他ニ是□氣毒ヲ思ウ」など、火事になりかけたり、長女が大手術を受けるなど困難に陥った際は必ず参詣している。晩年の高岡は、心臓を患っていて体調不良の時期が続くが木山詣を止めることはなく、ついには昭和34年の狛犬奉納へとつながった。さらに最晩年には、昭和35年4月23日「高岡君来荘 二十七日木山建碑ムハシ」、昭和35年4月29日「高岡君来荘 木山寺碑二十七日ニ建立シテト本日帰津 休養ムト」とあり、木山寺へも碑を獻じていることが分かる。大変、信心深い人物であったと思われる。

おわりに

今回は、狛犬を台座だけでなく、日記からも見ることで別の視点から考察した。50年間日参と書かれてはあるが、実際どのように50年間通ったのかは、台座からだけでは読み取れない。日記には、時代背景や参詣の様子などが書かれており、狛犬が奉納された時代をリアルに感じることができた。

小稿を書くにあたって、岩本えり子氏、木山神社の関係者にお世話になった。末筆ながら記して御礼申し上げます。

（資料1）『安黒一枝の日記』 大正10年～昭和35年

大正10年12月13日	高岡君木山神社より帰津木山及落合二カ所に竹器販売店を紹介てくれる。
大正10年12月14日	朝 高岡君来荘 木山神社に札上贈
大正14年9月20日	高岡君 本日本木山神社へ参詣明朝帰津の旨 言使あり
大正15年6月30日	香山・高岡の両君木山詣デ
大正15年11月15日	高岡君来荘 木山神社へ電話布設寄付の件
昭和4年1月20日	高岡君 木山 甲斐蓬太郎君同伴来荘
昭和4年6月3日	高岡君来荘 因幡山林の件ニ付 今夕木山へ参詣明日帰津の旨
昭和4年7月13日	夜分 高岡君來訪 雜談 明朝木山詣テ 夕方帰津することなり
昭和4年7月14日	高岡君 本日 木山詣テ
昭和4年7月15日	高岡君 木山より帰津
昭和4年9月13日	木山神社宮司 甲斐蓬太郎君來訪 社務所改築寄付の件
昭和5年2月19日	高岡君来荘 昨夜終列車ルニ帰津したり迪 木山詣
昭和5年5月4日	高岡君等の一行 今夕木山より帰津ノ由也
昭和5年7月12日	本日本木山参籠の約ありしも高岡先達来津ル起為免取止免 棋戦

昭和 5 年 7 月 16 日 朝六時起床 高岡 龍門君同伴七時三十分発尔テ木山神社参詣 大暑口、難く途中三回休憩十一時山上尔到達 木山神社及び木山寺へ参詣 木山寺尔至り高岡君の紹介尔依り和尚会見 宝物雪舟幅其他観覽 昼食をヨリ二時過ぎ 甲口老先生訪問初対面也 当□□蓬太郎君も来会すル 夕食の饗応尔アツカ懇談数刻 本日帰津予定ノ処 薦免られて遂尔一泊一時ころ迄老先生と雑談 他諸君 暮戦 夜を徹したる模様也 老杉鬱蒼天尔直立し荘厳の觀あり山上の涼味可掬 一時頃 快眼を貪る

昭和 5 年 7 月 17 日 朝七時起床 九時頃朝食 蓬太郎君來会 十時出發 下山十一時三十分落合発一時帰津 夕方高岡君來莊

昭和 5 年 9 月 27 日 高岡君來莊 午后 高岡君木山へ参詣ヨシ

昭和 6 年 3 月 7 日 高岡君來莊 今夜 木山村会陽へ参詣春る由なり

昭和 6 年 3 月 10 日 高岡君來莊 木山より本日帰津志たり迪 夕方 辞去

昭和 6 年 3 月 30 日 高岡君 昨夜 木山寺より帰津したり迪來莊

昭和 6 年 5 月 20 日 高岡君來莊 木山寺 和尚同伴 夕食を共爾春

昭和 6 年 6 月 21 日 10時過 高岡君來莊 (木山より帰津)

昭和 6 年 10 月 2 日 高岡君來莊 午后出發 山口君同伴木山へ赴く迪

昭和 6 年 10 月 4 日 高岡君來莊 木山より昨夜帰津セト

昭和 7 年 1 月 12 日 高岡君來莊 同君ハ午後 木山詣で明夕帰津ノ筈

昭和 7 年 2 月 13 日 三時 高岡君來莊 木山よりの帰途

昭和 7 年 4 月 5 日 高岡君有り 木山詣り明日帰津ノ筈

昭和 7 年 6 月 5 日 高岡君來莊 同君木山詣で夕刻帰津ノ迪

昭和 7 年 10 月 23 日 夕方 高岡君木山より帰津 会食

昭和 7 年 11 月 9 日 高岡君來莊 約上書調印□□春 甲斐蓬太郎君二名來莊 木山神社に建築寄付金ニ
関春る件不取敢金 百円也口幅

昭和 7 年 11 月 26 日 高岡君來莊 本日木山詣り明夕帰津ノ由

昭和 7 年 11 月 28 日 高岡君來莊 高岡君木山より帰津來莊

昭和 8 年 1 月 6 日 高岡君 木山より帰津來莊

昭和 8 年 2 月 17 日 高岡君來莊 木山寺会陽 神木持參 夕食ヲ共ニ春

昭和 8 年 6 月 25 日 十一時頃 高岡君來莊 今朝木山より帰津

昭和 8 年 8 月 20 日 本日 甲斐老人 葬儀予定ノ処榊料ヲ高岡君へ托し失礼

昭和 8 年 8 月 21 日 高岡君 夕刻 木山より帰津

昭和 9 年 1 月 31 日 高岡君來莊 本日木山詣 昨夕帰津ノ由

昭和 9 年 3 月 6 日 高岡君來莊 木山寺会陽へ参り帰途也

昭和 12 年 2 月 28 日 高岡君來莊 昼ヨリ木山寺会陽に参詣來月三日迄ニ帰津さるとの事

昭和 12 年 3 月 4 日 高岡君 木山ヨリ帰津來莊 風邪ニナリ閉口シテ

昭和 12 年 7 月 16 日 高岡君來莊 昨夕木山ヨリ帰津セトテ、云々

昭和 12 年 10 月 19 日 高岡君 夕刻 木山院ヨリ明後日帰津ノ事

昭和 13 年 1 月 5 日 十時 高岡君來莊 本日木山詣デ 明日着

昭和 13 年 2 月 6 日 高岡君來莊 □□木山ヘ詣り明夕帰津する迪

昭和 13 年 3 月 6 日 十時過ぎ 高岡君來莊 一昨日來木山参詣昨夜帰津ヨリテ 0時半辞去

昭和 13 年 4 月 26 日 高岡君來莊 昨夜 木山ヨリ帰津セトテ

昭和 13 年 4 月 30 日 高岡君 木山ヘ明日帰津ヨシ

昭和 13 年 8 月 17 日 高岡君来荘 木山へ詣デ 本日帰津シリト
昭和 13 年 10 月 22 日 高岡君来荘 木山ヨリ昨日帰津シリト
昭和 13 年 12 月 31 日 高岡君来荘 一昨日木山へ詣る昨夜帰津
昭和 14 年 1 月 3 日 高岡君来荘 明日 木山参詣 明後日夕方迄帰津/筈ト
昭和 14 年 1 月 7 日 高岡君来荘 今朝木山ヨリ帰津セリト
昭和 14 年 4 月 30 日 高岡君来荘 今朝木山ヨリ帰津シリト
昭和 14 年 5 月 14 日 高岡君来荘 昨夕 木山ヨリ帰津シリト
昭和 14 年 7 月 15 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰途カ
昭和 14 年 8 月 7 日 高岡君来荘 木山へ参詣 昨朝一番ニテ帰津シリト□へ帰村
昭和 14 年 8 月 18 日 高岡君来荘 本夜 木山へ詣セリト
昭和 14 年 11 月 14 日 高岡君来荘 木山ヨリ昨日帰津シリト
昭和 14 年 12 月 1 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰津シリト
昭和 15 年 1 月 2 日 高岡君来荘 木山ヨリ
昭和 15 年 1 月 5 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰りシリト來荘
昭和 15 年 1 月 18 日 高岡君来荘 今朝 木山ヨリ帰津シリト
昭和 15 年 1 月 22 日 高岡君ヨリ電話 三時頃 木山詣デ 明後日帰津スル旨
昭和 15 年 2 月 2 日 高岡君来荘 今朝木山ヨリ帰津シリト
昭和 15 年 2 月 24 日 高岡君ハ今夜木山へ詣デ 26 日夜分帰津/筈
昭和 15 年 3 月 6 日 高岡君来荘 過刻出津シリト本日木山詣日明朝帰津/由
昭和 15 年 3 月 18 日 高岡君来荘 今朝木山より帰津シリト
昭和 15 年 5 月 3 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰津來荘
昭和 15 年 5 月 24 日 高岡君来荘 善直君無事帰還ニキ木山に御礼詣スルト
昭和 15 年 7 月 20 日 高岡君来荘 満州咄ヰカ、本夕木山詣 明日帰津/筈
昭和 15 年 7 月 30 日 高岡君 明朝木山詣デ スルノコト
昭和 15 年 8 月 26 日 高岡君来荘 午后木山へ上り明朝帰津ト/事
昭和 15 年 8 月 27 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰りシリト夕刻迄雑談
昭和 15 年 10 月 3 日 高岡君来荘 昨日木山詣/過刻帰津シリト夕刻帰村
昭和 15 年 10 月 23 日 高岡君来荘 木山ヨリ昨夕帰津シリト
昭和 16 年 6 月 1 日 夕方 高岡君木山ヨリ帰途立ヨリ
昭和 16 年 6 月 6 日 本日 木山ヨリ帰リシリト
昭和 16 年 9 月 11 日 夕方 高岡君来荘木山ヨリ帰津シリト
昭和 16 年 10 月 19 日 高岡君来荘 木山秋祭ニ参詣スルト
昭和 16 年 10 月 22 日 高岡君来荘 本日木山ヨリ帰リシリト
昭和 16 年 11 月 20 日 高岡君来荘 木山戻ケリト
昭和 16 年 11 月 23 日 高岡君来荘 木山ヨリ唯今帰津シリト來荘ニ就キ
昭和 17 年 1 月 10 日 高岡君来荘 木山ヨリ過刻帰津シリト木山寺ヨリ贈ラル
昭和 17 年 1 月 29 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰津 来月四日 高岡君木山詣ノ序ヨリ以テ調査シ貰フコトニスル
昭和 17 年 2 月 4 日 高岡善真君 神戸岡本ヘ行ケト來荘 次テ高岡虎市君木山参詣/途次立ヨル
昭和 17 年 2 月 7 日 高岡君来荘 高岡君木山ヨリ帰途立ヨル
昭和 17 年 2 月 19 日 高岡君来荘 木山入山/帰途
昭和 17 年 3 月 4 日 高岡君来荘 午后木山会陽ニ参詣スルト
昭和 17 年 3 月 26 日 高岡君木山ヨリ帰途立ヨル

昭和 17 年 4 月 10 日 高岡君来荘 今朝木山ヨリ帰リレトテ
昭和 17 年 6 月 13 日 高岡君来荘 木山ヘ行ケテ
昭和 17 年 6 月 15 日 高岡君来荘 今朝木山ヨリ帰津シレトテ
昭和 17 年 7 月 5 日 高岡君來訪 夕刻木山ヘ詣フ
昭和 17 年 9 月 23 日 高岡君来荘 明日木山ヘ詣フ
昭和 17 年 9 月 25 日 高岡君来荘 木山戻り
昭和 17 年 10 月 23 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰途
昭和 17 年 12 月 5 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰途
(昭和 18 年～昭和 24 年までは未解読)
昭和 25 年 1 月 17 日 高岡君來訪 木山ノ帰途
昭和 25 年 3 月 12 日 高岡君來談 木山会陽引きツ々ヰ昨日日垣
昭和 25 年 5 月 31 日 高岡君來談 木山ノ帰途
昭和 25 年 7 月 16 日 高岡君来荘 木山ヨリ帰還
昭和 26 年 2 月 26 日 高岡君来荘 木山会陽帰途 雜談
昭和 27 年 6 月 12 日 高岡君來談 昨日木山ヘ本朝帰津セト
昭和 28 年 3 月 3 日 高岡君來談 夕刻 木山会陽ヘ参詣スルトテ云々
昭和 28 年 3 月 8 日 高岡君来荘 昨日木山ヨリ帰津
昭和 28 年 7 月 13 日 高岡君来荘 病夫人ゾゾ最後が近キル模様コ一週間山口医師/診断ヤ□□ノ件ナド咄入
□□ハ木山行キ予定也ト
□ド品 葬儀費ナド 十三万円ヲ要シレト 明朝木山ヘ行外
今夕木山上リ
高岡君来荘 □□川ニオリ骨二本打リ由 明朝木山ヘ上ルシ
高岡君来荘 今日明日木山会陽
高岡君来荘 木山に上リ□□
高岡君再訪 明日は木山行き
高岡君来荘 木山□新□来津
高岡君来荘 木山寺□□ヘ昨日午後三時離津□山去る由
高岡君来荘 木山ヨリ帰津 来月木山会陽ヘ要領ヲ得サルト
高岡君來談 木山ガ昨夕帰津シエト
高岡君来荘 前月末 病気□本月四日頃ヨリ快 昨日 木山ヘ参詣スル予定カト
高岡君来荘 木山詣デ 五日間滞留□帰津□□□
高岡君來訪老人一昨日木山ヘ詣デ 過刻帰リレト
高岡君来荘 藍瑛大幅ハ木山ヘ向カ由
高岡君来荘 木山ヘ参詣シ居ツタ由 色々コム話アル
高岡君来荘 □日来 真賀温泉 湯原五日間 ルガ三月一日 木山会陽ニ立会昨日帰津シ由
高岡君來談 十二日木山ヘ行外ノコ 木山寺ニ□宿ノ咄ナド
高岡君来荘 木山寺落慶経過
高岡君来荘 木山ヘ詣タ 昨夕来娘ハコヘ帰津シ外
高岡君来荘 来ル二十日 木山秋祭コハ赤染君ガウル
高岡君来荘 木山会陽ヨリ昨夕帰津シレトテ
夕景 高岡君来荘 一昨日木山ヘ参詣

昭和 32 年 3 月 30 日	高岡君来荘 昨日木山へ過刻シレト
昭和 32 年 4 月 21 日	高岡君木山詣デ
昭和 32 年 6 月 30 日	高岡君来談 上横野自宅火事ニカリ幸ニ早ク発見大事ニカリ由ヒノ礼漸ニ木山へ参詣帰津シト
昭和 32 年 8 月 7 日	高岡君来荘 勝山ヨリ木山へ詣テ昨夜帰津シレト
昭和 32 年 9 月 16 日	高岡君来談 昨朝出津シリテ松材取計第 1 回分取□無事終了シ由 明朝ハ木山ハ松材壳外メ
昭和 32 年 12 月 26 日	高岡君来荘 長女ノ知□□君□ノ大手術ヲ受ケ本日七日ニカリ間木山詣リ他ニ是□氣毒ヲ思ウ
昭和 33 年 2 月 23 日	高岡君来荘 木山神社ヘ御籠リルカマガ 温泉へ三泊昨夕帰津シタテ
昭和 33 年 3 月 12 日	高岡君来荘 木山ヨリ昨日帰津シリト
昭和 33 年 6 月 19 日	高岡君来荘 木山ヨリ真賀へ漸ク昨夕帰津セト
昭和 34 年 2 月 4 日	高岡君来荘 昨日木山詣シタメ木山寺ノ御木札持參オカル
昭和 34 年 7 月 13 日	高岡君来荘 木山ノ夏祭ヘ參詣スルト
昭和 34 年 7 月 16 日	高岡君来荘 木山ヨリ昨日帰ツシト
昭和 34 年 7 月 31 日	高岡君来荘 木山神社奉獻コマ犬ノ名文ヲ据ヘツタ之々
昭和 34 年 8 月 9 日	午後 高岡君来荘 十六日落合ヘ赴ニ奉納ノ口建□スルト
昭和 34 年 10 月 6 日	高岡君来荘 木山ヨリ昨日帰津シ外本日帰村
昭和 34 年 10 月 16 日	高岡君来荘 来ル二十日木山秋祭ニ赤染君ガケル
昭和 34 年 10 月 17 日	高岡君本日 木山行
昭和 34 年 10 月 21 日	高岡君来荘 木山ヨリ昨日帰津
昭和 34 年 12 月 6 日	高岡君来荘 昨日木山参リシ外
昭和 34 年 12 月 20 日	高岡君来荘 昨日木山ハイタ由
昭和 35 年 1 月 10 日	高岡君来荘 一昨日木山ヘ詣リ昨日帰津セト
昭和 35 年 1 月 30 日	高岡君来荘 □□□木山ヘ詣ツリトテ本夕帰村
昭和 35 年 3 月 26 日	高岡君来荘 后三時半車テ木山ヘ行外
昭和 35 年 3 月 29 日	高岡君来荘 木山寺昨日帰津シレト
昭和 35 年 4 月 23 日	高岡君来荘 二十七日木山建碑スルハシ
昭和 35 年 4 月 29 日	高岡君来荘 木山寺碑二十七日ニ建立シレト本日帰津 休養スルト
昭和 35 年 5 月 29 日	高岡君来荘 明日木山ハイ
昭和 35 年 6 月 22 日	高岡君今朝遂ニ死去□照電ニ接シ由・・・云々

文献

(註 1)『岡山県人物事典』山陽新聞社 1994

(註 2) 岩本えり子「大谷土地区画事業の一側面～安黒一枝の日記から（1）」『年報津山弥生の里第 16 号』2009